

渡邊英夫・平山史朗・藤崎拓憲 著

脳卒中の下肢装具—病態に対応した装具の選択法 第3版

高嶋孝倫（長野保健医療大学保健科学部）

本書は脳卒中片麻痺者の下肢装具について、そのすべてを網羅した名著であると思う。著者である渡邊英夫先生（佐賀医科大学名誉教授）はリハビリテーションの分野では高名な先生であり、装具についても造詣が深く、ご自身の開発による装具の数々は障害のある多くの方々を支えてきた。

私は本書を初版のポケット版から愛読させていたでいており、今回は版を重ねてカラー印刷となり、著者に平山史朗先生（社会保険大牟田天領病院）、藤崎拓憲先生（熊本託麻台リハビリテーション病院）の理学療法士2名が加わっての登場である。図・表を中心とした直感的にわかりやすい記述という方針は貫かれているが、内容面ではより一層の充実がみられる。

本書の特徴の一つとしては、現在、数多くの種類がある下肢装具がほぼ全て網羅されているという点であろう。多岐にわたる短下肢装具・足継手群については、実に47種類が掲載され、カラー写真などに加えて、ポイントをついたわかりやすい解説がなされている。そしてさらに、改版ごとに新しい装具が追加され、販売中止などによって主流ではなくなった装具は除かれてリニューアルされている。現状にマッチした情報が網羅されていることにより、臨床現場で装具を処方する医師、歩行訓練を行うセラピストはもとより、製作・適合を担当する義肢装具士、さらにはこれらを学ぶ初学者の人たちにとっても有

益な情報源と考えられる。

脳卒中の下肢装具について、最も重要と言える「病態に対応した装具の選択法」については、この文言が本書の副題であることから推察される通り、チャートなどを利用したわかりやすい記述でまとめられている。私が愛読するポケットサイズの初版ではチャートのみであった部分などが、A5判の第2版からは解説が加えられ、第3版ではより詳しくなった。さらに、装具の選択については、理論に加えて実際にはどのような装具が使用されているのかが気になるところであるが、139人の理学療法士に対するアンケートから56問のQ & Aがまとめられ、脳卒中の下肢装具に関連する人たちが日頃抱いておられる多くの疑問が解消されることが期待される。独自の手法で実施された統計値が示されている点も興味深い。また、新たに臥床中に生じる、尖足、内反足などの廃用症候群に対する予防器具についても解説されている。

本書を一言で表すとしたら、帯に印刷されている「達人に学ぶベストフィッティング」であろう。脳卒中のリハビリテーションにおいて、装具を使用した歩行訓練、そして多々ある下肢装具のすべてを熟知した先生方による「頼れる一冊」である。

（A5・頁208 2016年 定価：本体4,200円＋税
[ISBN978-4-260-02488-4] 医学書院刊）